園だより［10月］

（ふじみこども園HP）

令和８年９月３０日
千代田区立ふじみこども園

「わくわくビオトープ」

幼児部副園長　幸田　育子

木々が色づき始め園庭に舞い落ちる葉を手いっぱいに集めて、「先生みて」と笑顔をみせる子どもたちの姿に秋の深まりを感じます。本園では令和4年度から「とうきょうすくわくプログラム」に参加しています。ふじみこども園の園庭を「心や体がわくわく・ドキドキして思わず関わりたくなる場」にするために、5歳児が中心となってアイデアを出しあい、子どもと職員が一緒につくっていくプロジェクトを進めてきました。そして、念願だった園庭のビオトープが先日完成いたしました。職員同士で毎年試行錯誤したり子どもたちに聞いたりしてビオトープ作りを進めてきましたが、中々生き物が育たずにいました。日当たりやエサ等いろいろ試してもダメで、今年度は専門家の方を招いて話を伺いながらビオトープ作りをしました。完成するまでの過程で荒木田土を使用すると、ふぁいとぐみの子どもたちから「荒木田土知ってるよ」「泥団子作れるよ」「瓶で磨くとぴかぴかになるよ」等経験したことを話したり、荒木田土が石と石をつなげる役割をする話を聞くと、驚いた表情で「糊と同じだね」とつぶやいたりしていました。また、ビオトープの周りは少しでも自然を身近に感じてほしくて天然の芝生を植えました。そして、いよいよビオトープにメダカを放流！目をキラキラさせながら、まさに“わくわく・ドキドキ”な子どもたちでした。園庭やビオトープを通して、子どもたちの遊びの中から生まれる発見や発想を大切に、これからも乳児も幼児もみんながわくわくドキドキするような園庭作りを進めて参りたいと思います。

今月は 4,5 歳児の運動会が富士見小学校の体育館で行われます。「体育館行ってきます」と毎日元気に体育館に行き、玉入れをしたり表現をしたりリレーをしたりと楽しんでいます。今から当日がとても楽しみです。子どもたちの成長を保護者の方と喜びながら笑顔あふれる運動会となるよう職員一同チーム力を生かして進めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。







≪10月のねらい≫

0歳児 はいはい組		○保育者に欲求や思いを受け止めてもらい、安心して自己主張をする。 ○テラスや園庭、散歩での戸外遊びの中で身近な自然にふれて遊ぶ。
1歳児 とことこ組		○園庭や散歩などの戸外遊びを通して、保育者と一緒に秋の自然に触れて親しみを持つ。 ○保育者に見守られながら、近くにいる子どもとの平行遊びの中で、簡単なやり取りを楽しむ。
2歳児 すくすく組		○保育者や友達と一緒に自然に触れて遊ぶことを楽しむ。 ○自分の思いや気持ちを言葉で表したり、保育者の仲立ちの元相手の思いに気づいたりする。
3歳児 ぼうけん組	短時間保　育	○保育者や友達と一緒に、戸外で走ったり踊ったりして、伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○ドングリや落ち葉など身近な秋の自然物に触れ、形や大きさなど気付いたことを保育者に伝えようとする。
	長時間保　育	○保育者や友達と戸外遊びを通して、伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○秋の自然物(落ち葉や木の実)に興味をもち、拾ったり集めたりして親しむ。
4歳児 わんぱく組	短時間保　育	○学級のみんなと一緒に走ったり踊ったりして体を動かして遊んだり、簡単なルールのある遊びを楽しんだりする中で、自分の力を発揮するとともに、友達や学級のみんなのつながりを感じる。 ○ままごとや製作遊びなどに、ドングリや落ち葉など秋の自然物を取り入れて遊ぶ楽しさを味わい、秋らしい季節や自然に親しみをもったり、形や大きさ、色の違いなどに興味をもったりする。
	長時間保　育	○自分の思いや考え、イメージを言葉で表しながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。 ○秋の自然に触れ、見たり、遊びに使ったりして親しむ。
5歳児 ふぁいと組	短時間保　育	○学級やグループのめあてに向けて個々に力を発揮するとともに、同じグループや係で必要なことを考えたり協力したりして、やり遂げた満足感を味わう。 ○共通の目的をもった友達と一緒に遊びを進めたり、自分たちの生活を進めたりしていく。 ○身近な環境の中で、ドングリや落ち葉などの秋の自然物、コオロギやバッタなどの虫について関心をもって調べたり、遊びに使ったりして、秋の自然に親しみ、遊びや生活に取り入れる。
	長時間保　育	○自分なりの目的に向かって意欲的に取り組み、競い合ったり応援したりしながら遊ぶ充実感を味わう。 ○秋の自然物を遊びに取り入れ、トンボやバッタなどの生き物に興味をもち、気になったことを絵本や図鑑などで調べてみる。
預かり保育りす組		○伸び伸びと体を動かしたり、じっくりと自分のしたいことをしたりして遊ぶことを楽しむ。 ○秋の自然に興味を持ち、集めて遊びに取り入れてみたりする。

★CES 掲示板★



〇9月の重点目標を振り返って

“資源や物を大切にする（資源循環型社会、リデュース・リユース・リサイクル・リニューアブル）”では、身近な資源や物を大切にする気持ちを育みました。空き箱や廃材を遊びや製作に取り入れ、身近な物を工夫して使う楽しさを味わいました。使える紙や素材をとっておいたり、遊びに使ったものを丁寧に片付けたりする中で、物を大切にしようとする姿も見られました。

“日常備蓄で災害に備えよう”　9月の防災の日には、地震や火事などの災害に対する防災意識を高めることができるように、各学級で絵本や紙芝居、視聴覚教材を用いてそれぞれの学年に合った指導を行いました。指導を積み重ねてきたおかげで、火事の想定時には「ハンカチで口をおさえて、煙を吸わないように逃げるといいんだよね」と言っていました。
また、園から、ご家庭に備蓄品をお配りしました。この機会に、ご家庭の備蓄品を確認した方も多くいたようでよかったです。

〇10月の重点目標

「給食を美味しくなんでも食べよう」

様々な食材が出てくる、給食を友達と一緒に食べる中で、苦手と感じるメニューに挑戦したり、一口食べてみたら美味しくて、完食できた体験を積み重ねたりしていけるようにしていきます。

「食品ロス月間」

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる、食品ロスは464万トン（農林水産省および環境省「令和5年度統計」）食品ロスを国民一人当たりに換算すると“おにぎり1個分（102g）の食べ物が毎日捨てられていることになっています。必要な分だけ買ったり作ったりする意識をもつよう、栄養士と連携を図ったり視聴覚教材や絵本を活用したりして話題にします。
SDG‘S関連にも触れながら食品ロスを知らせていきます。

【てまえどりについて】

明日からできる ECO アクションとして、“興味はあるけど何から始めたらいい？” “どんなことができるかな？”そんな方に、明日からできる、地球にやさしいアクションをご紹介します。

買い出しの前に、冷蔵庫の在庫を確認し、食材を買いすぎないようにしましょう。また、環境省や農林水産省などで心がけの1つとして紹介されている、“てまえどり”をご存知でしょうか。買い物の際、すぐに食べる食材は棚の手前からの賞味期限・消費期限の短いものから取るようにすることも食品ロスを防ぐ行動です。